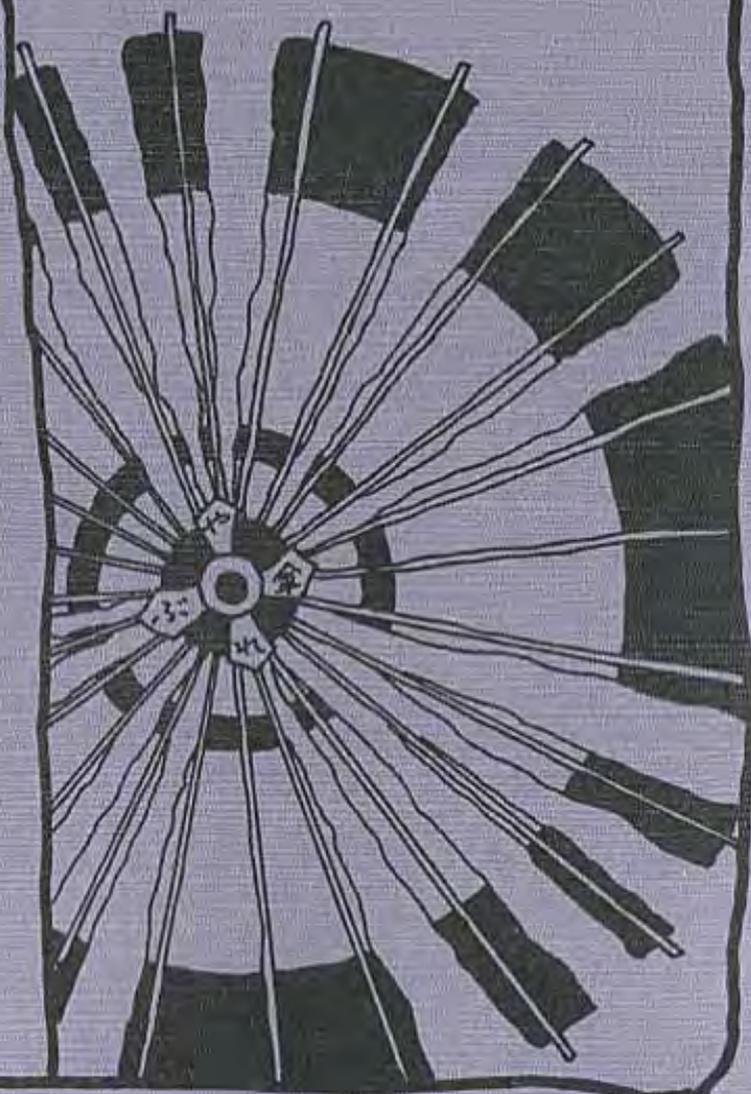


やぶれ傘



九十号

二〇一六年六月

散髪にゆくことにする夏の秋 根橋宏次

夏近き鴉が紙のやうに降り 大島英昭

山藤や自動車クルマの先を猫車 丑久保 勲

活断層見える切り岸夏つばめ きくちきみえ

合宿の明かり艇庫に夏来たる 廣瀬雅男

石切場跡はむき出し春の蔭 瀬島 酒望

駄菓子屋のルビーの指輪啄木忌 菊池洋子

帰るときいつも路上に夏椿 藤井美晴

夏シャツの袖から覗く肘の色 小山陽子

水口に風波向かふ代田かな 渡邊孝彦

店主出て伸ばす日除けや青物屋 青谷小枝

雨雲のたれて川辺に藍鳴けり 白石正躬

連弾のドレスふれあふ春灯 安藤久美子

吾寄れば目高の群れのさつと散る 久世孝雄

打ち臥せて幼の眠る花の雨 秋山信行

抄 集 句 傘 れ ぶ や

大 崎 紀 夫 選

車降りればすぐに蕙蔭の香ばらまつり 有賀昌子

葉桜となりてやうやく空晴るる 松村光典

初夏の手水舎の水飛び散つて 本田 武

春の浜野球部員のランニング 森 美佐子

土筆摘む借り自転車を臨に止め 湯本正友

乳さぐる仔馬の足のおほつかな 石塚清文

坂道をころがるボール春休み 岡田香緒里

満席の蕎麦きり処麗げし 神山市実

バス降りて家まで急ぐ臙かな 國保八江

朝早き雀の声や夏近し 小池一司

駅までは父と早足手毬花 佐々木あつ子

夏の風路而電車の中をぬけ 鈴木昌子

傾きて星座臙になりにけり 武石京子

捨て畑の大桑となり芽吹きたり 時田義勝

門前に飴切の音若葉風 野口希代志

麦
畑

渡邊孝彦

休み田のゆるきでこぼこ蓮華草
亀鳴くをずっと待ちぬる万愚節
魔羅くるき若き立像辛夷咲く
四脚門脚のかたへに白椿
日曜のビルの窓拭き養花天
サザエさん通りに近く八重桜
トラクター田打ちは隅を念入りに
木戸門をあける音して桃の花
麦畑風やまぬまま日は暮れて
水口に風波向かふ代田かな

日除け

青谷小枝

もやもやと雪解の村に日の当たると
たんぽぽや自転車で来る魚売り
山桜一軒のほか皆無住
暮れの春ゴブラン織りの椅子ふたつ
古文書の解説講座日の永し
トマト苗茄子苗ゴーヤー苗植うる
青嵐根津の煮豆の量り売り
薄暑かな代筆で出す問診票
ロゴ大きな帆布のバッグ夏来る
店主出て伸ばす日除けや青物屋

墓

白石正躬

音させて竹の子さがす寺の藪
土手下でもの焚く匂ひ初夏の夕
川風のほどよき強さ夏の月
雨雲のたれて川辺に墓鳴けり
牡丹に重たき風の来てゐたり
かはせみの水につつこむ音のして
初夏の夕影ははや中州にも
明易き川沿ひは水あかりして
太陽光発電並ぶ麦の秋
小満の風の入りくる納屋の窓

山法師

安藤久美子

連弾のドレスふれあふ春灯
橋朧むかしむかしを古き地図
残雪の谿を近くに稚児車
ベネチアングラスに一枝山法師
水泳のあとあつあつの米の飯
シンフォニーホールの前に山法師
板塀の節穴に見る著莪の庭
青葉風届く温泉分析書
パスタには熊本産のトマトかな
青葉木菟ログハウスではバーベキュー

目 高

久世孝雄

理由もなく桜並木を二度三度
花筏都会の真中ながれけり
国道をひたすら西へ風光る
永き日やベッドの兄の無精髭
縄文の遺跡を囲み木々芽吹く
遅れ来る妻の緋色の春日傘
葉桜の覆ひ被さる朱の鳥居
新緑の庭にて昼餉皿の音
娘へと蕾の多き薔薇を剪る
吾寄れば目高の群れのさつと散る

花の雨

秋山信行

鍬先についと出でたる青蜥蜴
坦々と一日の終はり花菜漬
打ち臥せて幼の眠る花の雨
朧夜や遠く読経の間こえくる
谷間のぬるき出湯や遠蛙
しゃぼん玉ジャングルジムを潜りけり
散るさくら谷に藁葺屋根ふたつ
子雀のひよこと顔だす雨上がり
ペランダに鯉幟ゆれシャツのゆれ
メモを手を買ひ揃へたり種袋

薔薇の香

有賀昌子

蛇穴を出て教会の鐘の音
落つばき磴のいち段一段に
花どきの東京駅に降りにけり
枝えだにちがふ鳥来て囀れる
長春花母は四人の子を育て
探幽の墨絵のだるまうらけし
甘酒横丁春の目高に会ひにけり
のどけしやベンチに二羽の雀ゐて
車降りればすぐに薔薇の香ばらまつり
風抜ける薔薇のアーチの丈五尺

葉 桜

松村光典

冬鳥へ買ひ置きしたる蜜柑食ふ
とりどりの臯月いろどるバスの路
花浴びて花びら踏んで子ら走る
これも春空じんめりとどんよりと
葉桜となりてやうやく空晴るる
葉桜の京都堀川鴨遊ぶ
草いきれ若葉いきれをらんらんらん
同期会黙祷ありてよりビール
雨に打たれしとんぼうのつひに飛ばず
公園に夏の鶯ひもすがら

広瀬 濟

春うらら昭和のにほふ商店街
 梅林を見上げる先に昼の月
 雛壇に孫の飾りしアンパンマン
 歩道橋競つで上る新入生
 水温む釣竿持つ子たも攲持つ子
 新緑のなかに佇む無言館
 新刊のインクの匂ひ柿若葉

本郷美代子

雲なびく山を見下ろす春の宿
 猿芸に笑はせられて長閑なり
 囀りは一羽の鳥か父母の墓
 天を突くメタセコイアの若葉かな
 耳につく夫の鼾や明易し
 兄の忌の公園墓地や風薫る
 旧家裏に五六本あり今年竹

本田 武

行き違ふ電車待つ間や花に風
秩父道落花しきりに石地蔵
水芭蕉咲き近くにはトラクタ
巡礼の山路を越えて藤の花
初夏の山水舎の水飛び散つて
廃線のレール埋もれて桐の花
牧場にポピールいちめん牛の影

増田みな子

神鈴を強く振りたる受験の子
やはらかき陽差しの中に牡丹の芽
玄関に大靴並ぶ春彼岸
肩車さされて幼子花の下
瀬音して岸の山吹咲きにけり
竹皮をさらりと脱ぎて禅の庭
動かざる雲の真下の麦青む

◇ 7月・8月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
7月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	國保八江
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	6日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	9日(土)	PM3:00	句集出版パーティ	浦和ワシントンホテル	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
8月	1日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン8	丑久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	國保八江
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン8	瀬島 孟
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	鎌倉・妙本寺	丑久保 勲
	27日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

浦和コミセンの数字は集会室。

8月21日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR横須賀線・鎌倉駅東口改札口(若宮大路の方)。吟行地は妙本寺。句会場は鎌倉生涯学習センター(鎌倉駅前・若宮大路)。

◎連絡先

瀬島 孟 ☎ 048-862-2757	藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
大島英昭 ☎ 048-592-5041	WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522	浦和コミセン ☎ 048-887-6565
丑久保 勲 ☎ 048-853-3856	WEP俳句教室 WEP編集室へ